

登録文化財建造物保存・活用シンポジウム

愛知登文会では今年度、所有者の文化財建造物に対する学習・情報交換の場を提供するものとして文化財建造物保存・活用講座を実施してきましたが、その集大成となるシンポジウムを平成24年3月29日に開催いたしました。

シンポジウムでは、大阪府登録文化財所有者の会事務局長の寺西興一氏、NPO法人たいとう歴史都市研究所副理事長の椎原晶子氏をお招きし、前半はお二人よりそれぞれ現在取り組まれている活動内容についてご報告いただき、後半はディスカッションを行いました。

関西事例報告

「登録文化財 寺西家の長屋と町家の活用からまちづくりへ」
大阪府登録文化財所有者の会 事務局長 寺西 興一氏
寺西家阿倍野長屋・寺西家住宅 所有者

関東事例報告

「伝統的建物の保存・活用と谷中の歴史まちづくりの展開について」
NPO 法人たいとう歴史都市研究会 副理事長 椎原 晶子氏

ディスカッション

コーディネーター
小栗 宏次氏 小栗家住宅所有者
パネリスト
寺西 興一氏 前掲
椎原 晶子氏 前掲
牧 謙治氏 愛知県教育委員会文化財保護室主査
長谷川良夫氏 愛知登文会会長

関西事例報告 寺西興一氏

昭和7年に建てられた阿倍野長屋をマンションに建て替える計画を進めていた折、登録文化財に該当することがわかり、長屋では全国で最初の登録文化財になると聞き申請しました。

マンション建設と長屋改修の収益比較をしたところ、長屋改修の方が一桁安くでき、マンション建設のために用意していた自己資金で改修することができました。

長屋は飲食店に変わり、そこで働く若者が仕掛け人となり、2006年から毎年「どっぴり昭和町」という長屋や町屋を活用したお祭りを実施しています。

関東事例報告 椎原晶子氏

上野に寛永寺が建立され、谷中は寺町・門前町として繁栄。明治時代には上野公園もでき芸術文化の町に。

古い木造建築が魅力ではありますが、地域コミュニティが合わさっている点が谷中のまちの魅力ということで、活動もまずは価値観の変革（古くて価値がない→ま

ちの人の営みの証、誇り、愛着）から始めました。

まちづくりグループ「谷中学校」の結成、まちじゅう展覧会・谷中芸工展の開催等してきましたが、歴史的建物の減少は進み、現在 NPO で4棟の歴史的建造物の保全・活用をしています。できるだけ地域へ開放し、「見る町並み」から体験する家とまちへと変わってきています。

ディスカッション

行政に望む支援について、「行政がもつ広報力、マイクや机などの設備を活用できるだけでも有難い」「登録文化財は法制度の緩和ができないので、伝統的建造物群保存地区にしたり消火栓を町全体につけるなど市民権を得ることができれば」といった議論が交わされました。

また、登録文化財候補をどう引き上げるかについて、「登録文化財制度は当初、景観の視点だったかと思うが、最近は内部も厳しく調査され登録も難しくなっている」「地域で登録文化財の存在感が感じられるようになることが大事」といった意見が出されていました。



1 文化財こども体験事業の報告

この事業は小中学生のころから文化財建造物に親しむことで、地域への愛着を高め、文化財建造物の保存・活用やまちづくりの将来の協力者を育てていくものです。具体的には、現場を訪問して、所有者や専門家から当該建造物を解説してもらうとともに、茶文化（茶道）等の伝統文化体験をセットにして、その価値を肌身で体感してもらう試みです。今年度は当初予定通り、様々なバリエーションで3回の事業を実施しました。

第1回 名古屋陶磁器会館（名古屋市）

陶磁器業の隆盛とともに名古屋に集まった九谷・京都など全国の優秀な絵付け職人は、多彩な技法であらゆる市場のニーズに応える、近代産業としての「名古屋絵付け」を確立してきました。この界隈で最盛期には日本から輸出される陶磁器の7～8割が絵付けされていました。この名古屋陶磁器会館は、昭和7年に名古屋陶磁器貿易商工同業組合（明治42年設立、昭和18年解散）が建設したのですが、全国および名古屋市内の陶磁器絵付け業の中心拠点であり、まさに業界のシンボルとして機能していました。

近傍のそのような歴史と名古屋陶磁器会館の役割をスライド映写と展示されている現物陶磁器を使って説明するとともに、建造物の特徴ある部分を写真提示して、それがどこにあるのか館内宝探しを行いました。そして最後に転写絵付けを体験して、プログラムを終了しました。

陶磁器会館近傍で澄んでいる小学生なので、多くは建物の存在を知っていましたが、どんな役割を果たしてきたのか、どういう建物なのかまでは周知されていませんでした。そして貴重な絵付け転写は、忘れえない経験として、こども達の心に焼きついたと思われます。

開催時間	プログラム	参加者
H23.12.26 14:00	名古屋陶磁器会館ってどんなところ？—スライド説明と展示品— 陶磁器会館事務局長・学芸員 松井三希子氏	施設近傍の学童保育 小学3-6年生27名 引率者 3名 合計 30名
14:30	名古屋陶磁器会館を歩いて、特徴を見てみよう	
15:00	陶磁器に絵付けをしてみよう（だれにでもできるよ）	
16:00頃	解散	



名古屋陶磁器会館の説明に聴き入るこども達



会館内の特徴ある場所を宝探しのように散策



実際に絵付けされた陶磁器を手にとってみる



豊富な絵付け転写用シール



転写作業に夢中なこども達



センス良く転写ができました……ピース

名古屋陶磁器会館～所有者からの感想～

学校ではあまり触れることのない地元の陶磁器産業について、地域の子ども達に説明する機会を与えられて感謝です。子ども達にとって地元の文化財建造物が身近な存在になり親しみや関心を持ってきて、将来文化財の強力なサポーターになってくれそうな予感を感じました。

第2回 柴田家住宅（清須市／商家）

柴田家住宅は東海道熱田宿から中山道垂井宿までをつなぐ美濃路（清須市西枇杷島町）に沿って建つ商家です。この商家近くの庄内川橋詰めには、名古屋城築城に前後して、江戸神田、大阪天満と並ぶ三大青物市場が形成されました。その市場で落ちるお金を目当てに問屋を中心に商店街が自然堤防に沿って成立していましたが、柴田家はその一つであり、飴（金平糖）を製造・卸・販売をしていました。

そんな中で地域では富の蓄積がなされ、地域全体として5台の山車を持つまでになりました。山車にからくりが設置され、西枇杷島祭りが行われるようになって、祭囃がかまびすしい祭礼が執り行われるようになりました。

しかし、1891年に濃尾大震災が発生して、庄内川の自然堤防沿い（美濃路沿い）の家屋は壊滅的打撃を受けました。その後復興がなされ、柴田家住宅は1896年に再建されています。この商家の特徴は「ミセ部分に広い無柱空間を確保するため、屋根の重みを上屋受桁で受け、交差する大梁に架けて、いわゆる『十字梁』で受ける」構造にあり、京町家でない、いわば尾張町家と呼ぶにふさわしいものとなっています。

今回はボーイスカウト（中村区にある団）と連携して下記のようなプログラムを実施しました。特に祭囃は屋内で演奏したため、体に響くほどの迫力があり、また一風変わった抹茶をいただくなど、独自の空間での貴重な体験を提供しました。

開催時間	プログラム	参加者
H24.2.11 13:30	問屋記念館で町の成立と歴史を学習（清須市が「ド・ボラティ」）	ボーイスカウト ボーイ隊（小6～中3） 14名
14:00	柴田家住宅の建築的特徴（林廣伸氏） 柴田家住宅内の見学（柴田正康氏）	カブ隊（小3～小5） 12名
14:50	東六軒町の出前祭囃の演奏	引率者等 4名
15:20	野風炉を想定した屋内野点による呈茶	合計 30名
16:00	解散	



町の成立を学ぶため問屋記念館で解説



柴田家住宅で建築的特徴を専門家が解説



山車の曳航で演奏される祭囃を生で聴く。腹に響く



携帯用野点道具箱・野風炉（のぶろ）を展示



屋内で野点風に抹茶をいただく



この企画のために幕を用意し、住宅の前で記念写真

柴田家住宅～所有者からの感想～

体験内容を理解できる中学生の来訪を希望していたが、小学生14人（内小3、小4、11人）、中学11人、と聞いて思わず絶句。どうなる事かと危惧しながら始まった体験会は、ボーイスカウトの訓練と質の高さを実感。見学者、付添、祭囃子方、茶点前係、説明者と総勢70人が拙宅に群めき、テンヤワンヤでしたが、終わってみれば、楽しい体験でした。次の機会があれば、もっとスムーズに、もっと楽しんで貰える様にしたい。

第3回 鳳来館（新城市）

鳳来館のある新城市大野（旧鳳来町）は、江戸時代は秋葉海道（秋葉神社～鳳来寺山）の宿場町として、明治時代には別所海道（豊橋～別所（現東栄町））が開通し、大正12年には鳳来寺鉄道三河大野駅が開設され、二つの街道と鉄道が接することになり、主産業である林業、養蚕・製糸業の隆盛を背景に経済・物流の要衝として繁栄してきました。

現鳳来館は、大正16年、東三河最初の民間銀行である大野銀行の本店として、志水正太郎により建てられました。外壁と外廻りの柱は鉄筋コンクリート造、床と屋根は木造の混構造二階建となっています。

そのような大野と鳳来館の歴史を大野区長でガイドボランティアもされている菅沼昭博氏より説明いただきました。また、鳳来館にまつわるクイズを出題し、こども達は館内を回りながらクイズの答えを探しました。その後、鳳来館を所有する㈱スエヒロ産業の取締役社長であり書家でもある安形憲二氏の指導のもと、遊彩書画を体験しました。畳1畳分もある大きな紙に自分の好きな言葉を書き上げる子ども達の生き生きとした表情が印象的でした。

開催時間	プログラム	参加者
H24.2.18 14:00	鳳来館（旧大野銀行）の説明 大野区長 菅沼 昭博氏	鳳来館周辺の小学校 小学4-6年生 19名 保護者 数名
14:30	鳳来館見学（鳳来館にまつわるクイズを実施）	
15:00	現代の書アート「遊彩書画」を体験しよう！ 安形 憲二氏（㈱スエヒロ産業 取締役社長）	
16:30頃	解散	



鳳来館の説明を聞くこども達



館内を回って鳳来館にまつわるクイズの答え探し



皆でクイズの答え合わせ



遊彩書画の体験（練習風景）



遊彩書画の体験（仕上げの彩色風景）



作品は後日表装し、鳳来館2階大ホールで展示された

鳳来館～所有者からの感想～

地域の子もたちと関わる良い機会となりました。当館の説明も真剣に聞いてくれ、クイズもいきいきと館内を探索してくれました。遊彩書の体験も、初めてとは思えないほどの素晴らしい作品となりました。また、今まで子どもたちにとって、なかなか入りづらいイメージもあったようです。これを機に、子どもたちに文化財に触れてもらう行事を開催し、子どもたちに伝えていきたいと思います。

2 観光ガイド育成事業

この事業は、観光ボランティアガイドの方を対象として、登録有形文化財の見学および学習機会を提供することで、登録有形文化財の魅力・価値を知っていただき、まち案内の際にその魅力・価値を伝えていただくというものです。具体的には、現場を視察して、所有者や専門家から当該建造物を解説いただき、その価値を肌身で体感してもらう試みです。今年度は当初予定通り、4回の事業を実施しました。

第1回 九重味淋大蔵（碧南市）

九重味淋のある碧南は、衣浦湾の東側にあり、対岸の半田とともに海運業、醸造業が発展したところです。温暖な気候風土、矢作川の水、米などの高品質な農産物など、醸造に適した条件と水運による販路に恵まれて、本みりんづくりが栄えてきました。みりん専業メーカーとしては日本最古の九重味淋の本社工場がここにあり、その大蔵が登録有形文化財となっています。

みりんづくりにおいては、良好な酵母菌が棲みついている貯蔵熟成蔵が重要です。このため、九重味淋の大蔵は新築ではなく、1706年造立の酒造蔵を1787年に名古屋市緑区から移築改造されています。

現場視察では、大蔵の内部・外部、工場の内部や設立30年を記念してつくられた「九重みりん時代館」（博物館）を見学し、その後に所有者・専門家とガイドボランティアの方々との意見交換を行いました。

開催時間	内 容	場 所	参加者
H24.3.6 14:00	開催主旨、案内者・参加者紹介、本日の予定等	会議室	大浜てら まち案内 人の会 10名 +碧南市商 工課 1名
14:10～ 15:30	所有者による案内とお話 榊原英房氏（九重味淋株式会社 取締役 総務部長） 川崎明子氏（九重味淋株式会社 品質部 研究管理課 課長） 専門家による建物（大蔵）についての解説 河田克博氏（名古屋工業大学大学院 教授）	工場内部 大蔵内部 大蔵外部 その他建物	
15:30～ 16:00	質疑応答	会議室	



開催主旨、案内者・参加者の紹介等



参加者（大浜てらまち案内人の皆さん）



所有者による案内（時代館一博物館）



専門家による建物の解説



移築の痕跡が残る大蔵の内部



その他の建物の紹介

九重味淋大蔵～観光ガイド育成事業後記～

移築にあたり規模を拡大しており、その痕跡が大蔵内部に残っていました。所有者の方も今回の視察の際に専門家の指摘で初めて知ったとのことでした。また、九重味淋の工場は、昔は海に面して建っており、石垣がその痕跡を残しています。大蔵の西面のみならず本宅の西面にも石垣が残っていることが工場内部の見学でわかりました。

第2回 安久美神戸神明社（豊橋市）

安久美神戸神明社は、豊川と朝倉川の合流点に隣接する吉田城跡の前に境内を構えており、天下の奇祭「鬼祭」で知られています。元は吉田城内にあったものが移転されたもので、現在の社殿は昭和5年に建設されました。建物としては古くありませんが、創立から1,000年以上という長い歴史を有しており、造形の規範となっているものとして「本殿」「幣殿及び拝殿」、国土の歴史的景観に寄与するものとして「神楽殿」、「神庫」「手水舎」の5件が登録有形文化財として登録されています。

また、江戸時代までは歴代藩主によってほぼ20年ごとに式年遷宮が行われてきました。明治以降も氏子の寄付によって受け継がれており、現在も20年ごとに式年遷宮（修理等）が行われており、神明社の特徴の1つといえます。

見学講習では、古建築についての解説を聞いた後、幣殿及び拝殿の内部を見学しました。神社建築についての解説もあり、参加されたボランティアガイドの方々も熱心に聞き入っておられました。

開催時間	内 容	場 所	参加者
H24.3.9 15:00	開催主旨、案内者・参加者紹介、本日の予定等 専門家による建物（神明社社殿）についての解説 杉野丞氏（愛知工業大学 都市環境学科 教授）	会議室	ほの国豊橋案内人 13名 +豊橋観光 コンベン ション協 会 1名
16:10～ 17:00	所有者による案内とお話 平石雅康氏（宗教法人 安久美神戸神明社 禰宜）	幣殿及び拝殿内部	
17:00～ 17:30	近代和風の神社建築について 杉野丞氏（PPTによる紹介） 質疑応答	会議室	



専門家による建物の解説



参加者（ほの国豊橋案内人の皆さん）



安久美神戸神明社 幣殿及び拝殿



所有者による案内（幣殿及び拝殿内部）



専門家による解説（同左）



近代和風の神社建築についての解説

安久美神戸神明社～観光ガイド育成事業後記～

当日はあいにくの雨天となってしまう、普段でもみることができる建物外部の見学および説明はとりやめ、会議室での解説を中心とし、杉野丞教授からは安久美神戸神明社以外の神社建築（伊勢神宮、熱田神宮他）についても解説いただきました。日本の神社建築の中での安久美神戸神明社の位置づけがよく理解していただけたのではないかと思います。

第3回 井上家住宅・伊藤家住宅（犬山市）

■井上家住宅 井上家住宅は、犬山城下町のメインストリートである本町通にあり、もう1つのメインストリートである新町通とT字型に交わるあたりに位置します。かつて「札の辻」があった箇所の近辺にあり、城下町の町並み景観の上でも重要な位置を占めています。本町通に面する主屋と敷地の奥にある蔵が登録有形文化財となっています。

元々、養蚕と製糸業を営んでいましたが、昭和初年より印刷業に転じ、平成23年まで井上印刷として営業していました。現在、主屋の通りに面する7割の部分にテナントとして飲食店が入っています。

■伊藤家住宅 伊藤家は犬山城下町のメインストリートである本町通に面して西向きに建ち、「札の辻」からやや南に下ったところに位置しています。間口は6間半(11.6m)と狭い間口の多い城下町の中では広く、敷地の奥行きは39mと広い庭を有しています。本町通に面する主屋と敷地東側にある蔵が登録有形文化財となっています。

江戸時代からワタギン（綿屋銀三郎）の屋号で綿を扱ってきましたが、明治初年に呉服商になり、同37年（1904）に洋品屋に転じました。

所有者の方に建物を紹介いただくとともに、登録有形文化財とされた思いなどについてお話しいただき、参加者からの質問にもお答えいただきました。

開催時間	内 容	場 所	参加者
H24.3.18 10:00～ 11:00	開催主旨、本日の予定等 所有者による案内とお話（井上大和 氏） 質疑応答	壽俵屋（井上家住宅のテナント）	ナイスで 犬山 7名
11:00～ 12:00	所有者による案内とお話（伊藤鎮生 氏） 質疑応答	伊藤家住宅 （中庭、蔵、建物2階）	



所有者の方にお話を伺う（井上家）



井上家の蔵



井上家の中



所有者の方にお話を伺う（伊藤家）



伊藤家の蔵



伊藤家の中庭

井上家住宅・伊藤家住宅～観光ガイド育成事業後記～

犬山市は愛知県内で最も登録有形文化財の数が多いところであり、城下町の16の町家が登録有形文化財となっています。今回は、そのうちの2つの町家で、普段見せてもらえない中庭や建物の内部、蔵などを見せていただきました。どちらも建物の一部をテナントとしており、犬山城下町の賑わいづくりに貢献されています。犬山の城下町に詳しい「ナイスで犬山」の方々からも多くの質問が出され、関心の高さがうかがえました。

3 情報コーナー

1 今後の予定

■総会開催のご案内（予定）

「愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会 総会」を平成 24 年 5 月 23 日（水）午後に予定しております。今後、詳細な時間と場所が決定しましたら、改めてご案内をお送りさせていただきます。会員の皆様はぜひご参加下さいますようよろしくお願い申し上げます。

2 愛知登文会 入会案内

当会では、会の目的に賛同し、活動に協力いただける方の入会・支援を随時募集しております。入会を希望される方は下記登文会事務局までお問い合わせください。

..... 会の目的

1. 国登録有形文化財建造物（以下登録文化財と呼ぶ）の保存と活用に係わる活動を行い、会員のみならず、広く、県民の文化的資質の向上を助け、日本の伝統文化の顕彰及び保存のための活動を行う。
2. 会員相互の親睦と登録文化財に関する情報交換を図り、県民との交流に努める。
3. 全国の登録文化財所有者、国や自治体とも連携を図り、登録文化財の地位の向上と啓蒙に努める。

..... 年会費/入会金

* 正会員および準会員

年会費 1 口 3 千円、法人は 2 口以上
入会金 1 人 3 千円、法人は 6 千円

* 賛助会員

年会費 1 口 2 千円、法人は 2 口以上
入会金 1 人 2 千円、法人は 4 千円

* 特別会員（地方自治体）

年会費・入会金ともに免除

会員種別など詳細については、下記愛知登文会事務局へお問い合わせいただくか、下記HPをご覧ください。

あいち とうぶんかい 情報 ライブラリ

★「あいちとうぶんかい情報ライブラリ」に掲載するイベントや講座などの情報を募集しています！

掲載を希望される方は下記愛知登文会事務局までお問い合わせください。

■■■美濃路起宿 春の湊屋市 はるのみなとやいち■■■

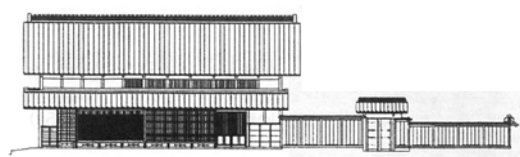
湊屋厳選の約四十店が集う春の市

美濃路の宿場町「起宿」で船問屋として栄えた「湊屋文右衛門邸」は築後 150 年の建物です。江戸末期から明治初期の古民家として残り、国の登録文化財に指定されています。

「旧湊屋文右衛門邸を食の拠点とし美濃路の振興を図り、かつ集会の場に活用して日本の伝統的な暮らし方を考える」という目的のもと、平成 22 年 11 月より「湊屋朝市」を興し、木曾川河川敷で毎週水曜日午前 9 時から開催されています。今回、その一環として、湊屋厳選の約 40 の店が一同に会する「春の湊屋市」が開催されます。

朝市で好評の野菜、食品から個性あふれる作家によるクラフト作品など、見るだけでも楽しい様々な店が出店予定です。

開催期日：平成 24 年 5 月 13 日（日） ※雨天決行
時 間：10:00～16:00



編集後記

本年度最後の愛知登文会ニュースです。登録有形文化財所有者の方々のご協力とこの事業の企画に賛同していただいた子ども関係の人々や地域のガイドボランティアの方々の協力を得て、文化財こども体験事業や観光ガイド育成事業を効果的に実施できました。関係者の皆様に感謝申し上げます。

来年度はさらに充実させて、余裕を持って実施していけるよう取り組んでいく所存です。一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

■■■昭和の洋館 岡崎市日本多忠次邸 ■■■

平成 24 年 7 月 6 日岡崎市東公園内に開館

岡崎市日本多忠次邸は、旧岡崎藩主本多家の子孫、本多忠次氏が、昭和 7 年に東京世田谷に建てた住宅です。学術的価値の高い文化財建造物であることから、岡崎市によって岡崎市東公園内に移築保存されます。国の登録文化財ではありませんが、岡崎を訪れた際に立ち寄りたところと。

所在地：東公園内（岡崎市欠町字大山田 1）

会場：第 1 会場（野菜やクラフト作品等約 40 店が並びます）
木曾川河川敷（濃尾大橋北愛知県側）

県道 18 号濃尾大橋東交差点北、愛知県側

第 2 会場（骨董や美術作品の店がお宝を並べます）

旧湊屋文右衛門邸 邸内（一宮市起字堤町 33-1）

入 場 料：無料

問合せ先：湊屋倶楽部 0586-72-3733（一宮市西島町 2-25-2 野の花内）

* 駐車場はありません。名鉄バス起線濃尾大橋東下車 3 分

愛知登文会ニュース 第 2 号

発行日：平成 24 年 3 月 30 日

発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
〒461-0025 名古屋市東区徳川一丁目 10 番 3 号

（財）名古屋陶磁器会館内

TEL 052-935-7841 FAX 052-935-9592

E-mail pottery@nagoya-toujikikaikan.org

URL http://www.aichi-tobunkai.org